

2021年9月13日

立命館大学体育会クラブのみなさんへ

立命館大学

学生部長 中西 純司

【継続のお知らせ】19都道府県への緊急事態宣言の期間延長

に伴う今後の体育会クラブ活動について

緊急事態宣言下での東京オリンピック・パラリンピックも終了しましたが、この間、体育会クラブのみなさんはどのように過ごされてきたのでしょうか。とりわけ、東京オリンピックの開催に関しては、これまでスポーツの文化性とその価値の推進に努めてきた人間としての個人的な考え方ではありますが、メダル獲得後にアスリートたちが口にする言葉を聞いて、「アスリート・ファースト」とは何かについて、とても考えさせられました。

確かに、アスリートたちが、東京オリンピックに人生を賭けてひたすら努力してきたことは十分理解できますが、メダル獲得後にインタビューで口にする多くの、個人的な喜び・達成感・充実感と、開催にこぎつけた主催者・関係者等に対する感謝の言葉だけでした。この時期に、新規感染者数は全国で1日あたり10,000人（都内では5,000人）を超えていましたが、アスリートだけを除いた国民に要請される不要不急の外出・移動の自粛への心づかい・配慮や、自宅療養を強いられ不安を抱えながらコロナと闘っている患者さん、そして何よりも、医療崩壊の危機にさらされながらもコロナ患者の生命を救うことに必死の医療関係者などへの感謝や思いやりの気持ちは、残念ながら聞くことができませんでした。体育会クラブのみなさんは、アスリートたちの言葉をどのように感じたでしょうか？

もちろん、すべてのアスリートが医療崩壊の危機に無関心であったかと言えば、必ずしもそうではないかもしれません。むしろ、新規感染者数の増加による危機を心配していたアスリートが大半だったのではないのでしょうか。しかし、平和の祭典であるオリンピック・パラリンピックにおいて、国民への感謝や思いやりの気持ちが発信されないことへの違和感に私たち自身が気づくことはとても重要です。

アスリート・ファーストとは、アスリートの単なる「エゴイズム」(利己主義)なのでしょうか。「今のこの難局をみんなと一緒に乗り越えよう」という主旨の温かい思いやりの気持ちや感謝のメッセージを国民や不安を抱えるコロナ患者、そして、疲弊した医療関係者に発信してくれることを、アスリートに期待してはいけないのでしょうか。今の体育会クラブ活動が許されているのは、本学学生・教職員の理解をはじめ、コロナ患者への医療関係者の救命努力、そして、行動制限への国民の理解といった、多くの方々の利他心と対社会との関係のなかで成り立つ「(学生)アスリート・ファースト」であることを忘れないでほしいと考えています。

さて、政府は、9月9日(木)に滋賀県・京都府・大阪府を含む19都道府県の「緊急事態宣言」を9月30日(木)まで期間延長することを決定しましたが、本学では、最近の感

染状況や医療体制の深刻な状況をふまえ、当面、BCP レベル「3」を維持することがすでに周知されています。そのため、体育会クラブ活動のあり方については、9月13日(月)以降も、BCPレベル「3」に応じた行動指針を厳格に適用することを継続し、「合宿・遠征」と「練習試合・合同練習」(いずれも高校・大学等)を停止します(*1)。なお、BCPレベル「3」では、感染症防止対策を徹底したうえでの「通常練習」と「公式戦」のみに限定した活動範囲となりますが、「キャンパス内諸施設は本学学生のみ利用が可能である」(学外者の施設利用不可である)ため、本学諸施設を試合会場とする「公式戦」は開催することができません。

現在も、感染力の強い「デルタ株」の感染拡大が進行しており、さらに「ミュー株」や「イータ株」などの新しい変異ウイルスも発見され、まだまだ予断を許しません。残念ながら、本学学生でも新型コロナウイルスの感染が報告されています。今後も、みなさんの「安全で安心な体育会クラブ活動」を維持していけるよう、各クラブで自主的に定めた「感染症防止対策ルール」のより一層の遵守徹底をお願いします。

最後に、新型コロナウイルス禍が続くなか、何か不安や不明なことがあれば、いつでもスポーツ強化オフィスまでご連絡ください。

以上

*1 今後の感染状況や本学園の法人危機対策本部会議の方針等によっては、上記方針を変更する可能性もありますので、その際は、あらためてお知らせします。